



「地域学校協働活動だより」は枕崎市のホームページにも掲載されています。スマホで読み取ったりパソコンで検索して、カラー写真付きの記事をご覧ください。

地域学校協働活動とは？



「地域学校協働活動」とは、地域と学校が連携・協働して子供たちの学びと成長を支える活動のことで、地域の人たちが子供たちと関わることで、地域の活性化にもつながる活動です。

昔は、子供たちは、地域での遊びや子ども会活動、家庭や地域での様々な行事や手伝いなどの体験を通して、先輩・後輩といった異年齢間の人間関係の在り方や人への思いやりなどを学び、成長していったと思います。

現在の子供たちは、社会環境の変化によって、地域での異年齢間の遊びや体験活動を行う機会が少なくなっているため、社会総掛かりで子供たちの学びと成長を支える「地域学校協働活動」に国全体で取り組んでいます。

学校で地域の人たちがボランティアとなって行う学校応援団活動はもちろん、学校で行われている地域人材による外部講師の活用、職場体験学習などの校外学習なども「地域学校協働活動」です。また、地区公民館で取り組んでいる青少年講座、市内それぞれの地域で子供たちが関わる地域行事、子ども会活動や地域の人たちによる子供たちの見守り活動なども「地域学校協働活動」になります。

「地域学校協働活動」を進めることで、子供たちが地域の人たちに見守られ、支えられながら、豊かな学びや体験活動を行い健やかに成長していくことは、地域に愛着を持ち、地域に貢献したいと考える将来を担う人材の育成につながるものです。さらに、子供たちが、地域の行事や活動に積極的に参加し、地域の人たちが子供の学びと成長を支える活動に参加することで、地域全体の活性化が図られ、地域創生につながっていくことが期待されています。

春の全国交通安全運動が4月8日から15日まで市内全域で実施されました。交通安全運動は年に4回、春夏秋冬に行われますが、市内30箇所以上の交差点や横断歩道で、交通安全協会やボランティアの方々によって街頭指導、

～年に4回の全国交通安全運動など 市内全域で子供たちを見守り～



中町公民館のボランティアの方々
 街頭指導・見守り活動（中央交差点）

子供たちの見守り活動が行われています。

まくらざき保育園前では、鹿児島県警本部から「少年警察ボランティア」として委嘱されている古閑修一さんが、子供たちの街頭指導、見守り活動を50年以上続けられています。

交通安全運動期間以外でもボランティアの方々が見守り活動を行っています。中町公民館のボランティアの方々には、毎週月曜日の朝の登校時と夕方下校時に中央交差点で街頭指導と見守り活動をしていただいています。

枕崎市の子供たちは、地域の方々に見守られながら元気なあいさつを交わして登下校をしています。

～立神校区内の南海自動車学校で 交通安全教室～ 立神小学校

安全のDVDを見た後、立神校区内にある南海自動車学校で、実際に自動車を走らせて実践的な交通安全教室を行いました。

南海自動車学校を1時間貸し切りにして、自動車学校の先生方や市の交通安全指導員が指導を行うもので、自動車学校の好意で30年以上も続いている行事です。

この日は、自動車が実際に道路を走っている中で、安全な横断歩道の渡り方を指導した後、自動車がブレーキをかけても急には止まれず風船を割ってしまう実験、人形が自動車の陰から車道に飛び出して自動車と衝突してしまう実験などが行われました。「安全な横断歩道の渡り方」では、子供たちは「止まる」「見る」「待つ」を何度も確認していました。



車が止まるのを確認して横断歩道を渡る

桜山小学校では、4月10日に5年生21人が校区内で農業を営む山崎己代治さんに指導していただき、学校田で田植えを体験しました。最高の田植え日和の中、米についてのお話を聞いた後、さっそく田んぼの中へ。ひんやりした水に足をつけ、泥の感触に歓声をあげる子供たち。4本くらいずつ稲をとり、1つ1つ丁寧に植えていきました。

～学校田で手植えの田植えを体験～ 桜山小学校



手植えで稲の苗を丁寧に植えていく

その後、乗用田植え機での田植えも体験させていただきました。機械を使うとあっという間に作業が進み、機械の便利さを実感した子供たちでした。

植えられた稲は早期水稻で、5アールの学校田で「うるち米」と「もち米」を半々ずつ育てます。8月に稲刈り、12月には餅つきをする予定です。

たくさん収穫できるように、観察や世話にもしっかり取り組んでいく予定です。

～別府台地に広がる茶畑で 茶摘み体験学習～ 別府中学校

枕崎市は県内でも有数のお茶の産地で、中でも別府地域は茶業が地元の基幹産業であり、市内のお茶生産の主力となっています。茶摘み体験学習は、働く尊さを学ぶ別府中の恒例行事で、20年以上前から続いています。

生徒たちは、お茶の手摘みの手法である「一芯三葉（いっしんさんよう）」を指で挟んで摘み取るやり方を教わり、その後実際に茶摘みを行いました。

一芯三葉とは、上質な緑茶を作るための手摘み手法の一つで、良芽を選び、芯芽と芽の下の葉を一枚、二枚、三枚と数えつつ丁寧に摘む方法です。通常は機械で刈り取りが行われますが、生徒たちは、昔ながらの手摘みで茶葉を指で挟み丁寧に摘んでいき、貴重な体験をさせていただきました。1時間半の作業で約25kgの茶葉を収穫することができました。茶葉は農研機構で加工され、煎茶になって生徒に贈られるということです。

別府中学校では4月24日に、校区内の瀬戸にある「農研機構」枕崎茶業研究拠点の茶畑で、全校生徒51人が茶摘み体験学習を行いました。



「一芯三葉」で新芽を手摘みする